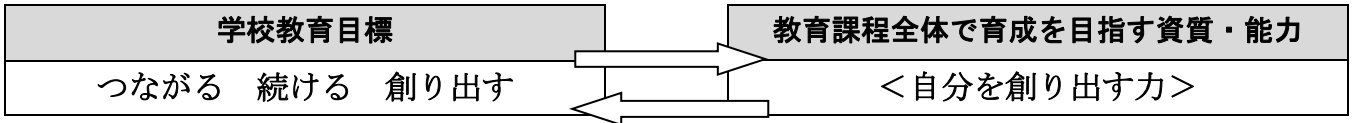


1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力



(2) 学校経営中期取組目標

- 全職員が丸となって、児童・保護者・地域の願いを受け止め、「まちと共にあゆむ」学校づくりを推進します。
- ・一人ひとりの子どもが、学ぶ楽しさを味わうとともに、学び続けることの大切さを理解できるようにします。
- ・小中一貫教育推進ブロックや家庭・地域と連携を強化し、信頼に応える学校づくりを進めます。
- ・全職員が相互に啓発や連携をする活気にあふれた学校運営組織を確立していきます。

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

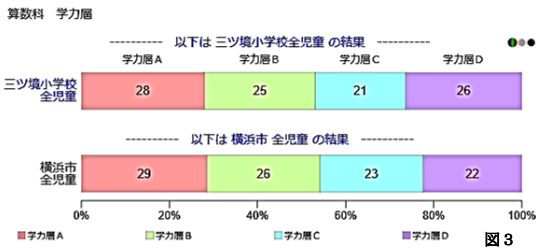
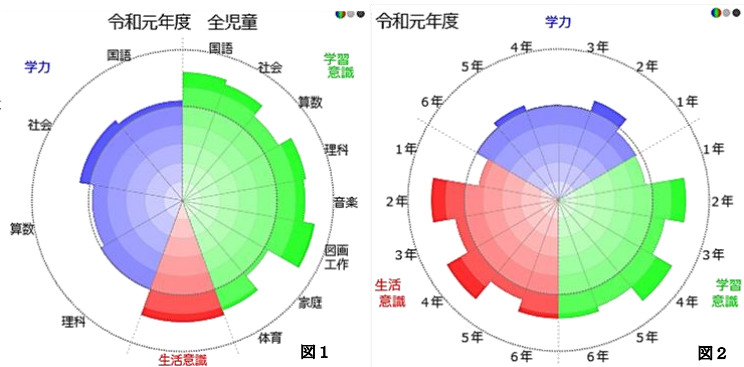
重点取組分野		具体的取組
生きて はたらく 知		①基礎基本の定着を図るために家庭と連携しながら家庭学習の習慣をつけとその充実を目指す。 ②4年生以上の学年では教科担任制を導入し、確かな学力の向上を目指す。 ③地域・学校コーディネーターと連携し、地域の「人、もの、こと」を効果的に活用し、子どもたちの豊かな体験的な活動を保障し、適切な学習支援につなげていく。
担当	指導部	

2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

～学力の概要と要因の分析～

令和元年度の学力・学習状況調査の結果を見ると、全体として学習意識・生活意識ともに、市の通過率を上回っている。学力については、算数を除いてほぼ市の通過率並みとなっている。(図1)

学年別にみると、1年生(現2年生)が市の通過率を大きく下回っており、特に生活意識が低いことがうかがえる。(図2) その他の学年を見ても、学年間に差が見られるために、学年の実態に応じたきめ細やかな指導と評価の必要性がうかがえる。



算数の学力層を見ると、どの学力層もほぼ市と同じ割合となっているが、若干学力層Dの割合が多い。(図3) クロス集計から通過率の高さを読み取ると、

- ・算数が好きな子ども。
- ・授業で自分の考えを発表しているほど子ども。
- ・朝食を毎日食べている子ども。
- ・まちの行事に参加している子ども。
- ・家庭学習が多い子ども。
- ・スクリーンタイムが少ない子ども。
- ・粘り強い子ども。

ほど、学力層が高いことが分かる。

本校の教育目標「つながる」・「続ける」・「創り出す」にあるように、学校の教育活動を通して学習に粘り強く取り組み続けたり、考えたことを進んで他者に伝えたりすることが、子どもたちの資質・能力の育成につながる大切であることが分かる。また、地域や家庭と連携して学習の習慣を整えたり、地域の活動を通して子どもの力を高めたりしていきたい。

【クロス集計】

